

Book Review



60年の臨床から導き出した 阿部晴彦の総義歯臨床

阿部晴彦・阿部薫子 著

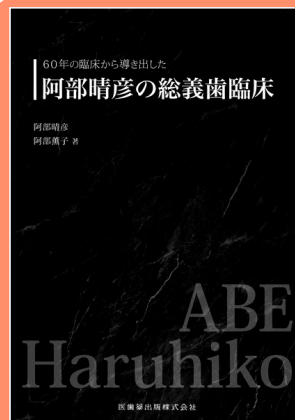


Reviewer

元 永三 Eizo Gen

(福岡市・医療法人聖和会ゲン歯科クリニック)

A4判, 160頁
オールカラー
定価 17,600円
医歯薬出版刊



まず60年間総義歯学一筋に、より良い総義歯造りのための印象採得法から咬合再構築まで術式と器具の改良・改善に精進して来られた阿部晴彦先生に尊敬の念と感謝の意を述べたいと思う。

私は『総義歯の臨床テクニック』(1976年, 書林), 『図説総義歯の臨床的ラボワーク』(1977年, 書林)などの阿部晴彦先生のご著書で総義歯学を学ばせていただき、私の総義歯臨床の基本となっている。そして日々臨床と研鑽、そして研修会を重ねるなかで、『コンプリートデンチャーの臨床』(1991年, クインテッセンス出版)を出版された。本書の序論に「30年前から現在の技法になった」と書かれているように、この1冊にこの30年間の臨床の基本が書かれている。今回発刊された書籍は、ここ30年の臨床の集約であるがゆえに、30年前のこの書を読まれてから今回の書を読まれることをお勧めしたい。

そのうえで私なりの本書のポイントを4つ述べてみたい。

① まず印象法だが、従来のモデリングコンパウンドによる辺縁形成+シリコーン印象法に加えて、ティッシュコンディショナーによる印象法も1つの方法として紹介されていたが、本書ではより高度な技法として動的加圧印

象としてのティッシュコンディショナー印象法を推奨し、使い方が大変わかりやすく整理されている。

② 次に人工歯であるが、歯槽頂間法則を否定し、元来歯牙があったであろう位置に人工歯を排列することを推奨され、咀嚼効率向上と咬合の安定のために上顎のS-Aブレード臼歯を開発された。その後、下顎のH-Aブレード臼歯を経て、本書では、機能的で咀嚼効率が良く、さらに審美性も兼ね備えたH-Aジルコニアブレード臼歯への改良を見ることが出来る。

③ 重合システムにおいては、義歯精度向上のための重合システムとして、イボカップシステムをいち早く取り入れられている。また、再現性を維持するためのリプレースメントジグを現在も使用されていることから、この操作は決して省くことができない工程であると理解できる。

④ 最後に咬合診断と再構築のためのSHILLA Systemである。多くの臨床家が失われた咬合の再構築に頭を悩ませるなか、誰でも簡単に失われた正中矢状面と咬合平面を具現化し再構築できる考え方・術式・器具類を阿部先生が開発してくれたおかげで、私を含め多くの臨床家が救われた。もちろん、無歯顎だけではなく、有歯顎にも応用できるこのシステムは私の臨床に必要な不可欠なものとなっている。当初

は少し複雑怪奇な部分もあり、頭では理解しながらも臨床応用が難しかったが、器具類の改良とエスティックフェイスボウの開発により簡便になったことは大変ありがたい。

30年前に『阿部晴彦総義歯学』はすでに確立していたが、その後も器具の改良・開発や術式の改良を続けてこられたおかげで、総じてシンプルな術式となり、それをわかりやすく紹介してくれるのが本書の最大の特徴である。60年の臨床経験から得られたこれらの重要なポイントについて初心者から熟練者まで参考になる書であると確信している。

35年前に阿部先生に初めてお会いしたとき、先生が総義歯学を専攻した理由が「当時は歯科補綴臨床の花形であったから」と聞いて少し驚いたことを記憶している。時代の変遷とともに歯科の花形(潮流)が補綴(加工義歯・総義歯)⇒ペリオ⇒インプラント⇒歯内療法と変わるなか、高齢社会を迎え、いままさに総義歯が花形である時代を迎えようとしている。われわれ歯科医師に求められているのは機能する義歯である。60年の臨床から導き出された阿部晴彦先生の総義歯学を学ぶことによって、一人でも多くの患者さんが救われることを切に願っている。